

質問への回答③

質問③：本人への告知は必要か？「自分は普通」と言って「相手が悪い」と言ったり、支援学級を受け入れない。どう接してどう対応したらよいか？

回答：

発達障害の子ども、特に ASD の子どもは自尊心の軸がぶれやすいといわれています。簡潔にまとめると、自尊心とは「自分を肯定的に評価し満足しているレベル」と言われています。発達的に見て自尊心が低すぎると何事にも自信が持てず、自分に対して否定的になりますし、自尊心が高すぎると他者が思っているより自己評価が高く「自分はできる」と思う傾向が強いということになります。すると人からの忠告や助言を聞き入れなかったり、他者から見ればできていないことも自分は十分にできると思い込んで行動するため、周りからは「手に負えない」と思われたりします。お子さんは後者に当てはまるようです。

通常自尊心は親からの好意的な評価を受け、自分の価値を位置づけていくことで育っていきます。ところが ASD の子どもたちは人の気持ちを読み取ることが不得手という特性のため、親が伝えていることの意味に気づかなかったり、その評価を誤って理解することが考えられます。だから、親が一生懸命説明しても間違って理解する結果「どう言えばわかるのだろう」と頭を抱えるような事態が生じてくるのだと思われれます。

一方で、他者の視点で物事を見ることが不得手という特性もあります。マイワールドで物事を判断するので、“みんなの中での自分の立ち位置”を認識する力(メタ認知といいます)が弱いので、自分の力を正しく認識することができず「自分は普通」「支援学級は嫌」ということになるのだと思われれます。

お子さんの年齢が不明ですので、はっきりとはお答えできませんが、状況によっては、障害告知をする必要があるかもしれません。その障害の特徴、その特徴から生まれてくる行動の特性(上述したようなことです)、その特性は大人から支援を受けることで上手に付き合えるようになることをしっかりと理解できるように伝えていくことが障害告知です。障害を現在起きている問題の犯人にするのではなく、障害があることで起こる不利益を避ける方法を一緒に考えようというスタンスで、話してみてください。

親が話すと認めないことでも、実はどこかで、困っていることが必ずあるはずで、そのようなことについては専門医や特別支援教育の先生などに、客観的に話していただく方が、子どもにとって受け入れやすいかもしれません。

そして地域には必ず通級の指導教室がありますから、そのような機関を利用して親の対応についてアドバイスを受けながら対応していかれるとよいのではと思います。